

山梨県立

考古博物館だより NO. 80

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko>

第33回特別展

縄文の美—世界に誇る JOMON 芸術—

2015年10月6日(火)–11月23日(月・祝)



国宝 火焰型土器 笹山遺跡
十日町市博物館所蔵



重要文化財 土偶 後谷遺跡
桶川市教育委員会所蔵



火焰型土器 野首遺跡
十日町市博物館所蔵

縄文の美～ Jomon Art ～



土偶装飾付土器 鋳物師屋遺跡
南アルプス市教育委員会所蔵



土偶 後田遺跡
韮崎市教育委員会所蔵



重要文化財 焼町式土器 道訓前遺跡
渋川市教育委員会所蔵

この秋、縄文王国山梨に名宝が集結する

第33回特別展

縄文の美—世界に誇るJOMON芸術—

縄文土器はその優れた造形美と多彩な文様によって、日本国内だけでなく世界でも高く評価されています。山梨県内の遺跡からも人や動物、植物などさまざまなモチーフを組み合わせた文様の土器が多数発見されており、特に縄文時代中期の土器においてその芸術性の高さが際立っています。

今回の特別展では、そうした「縄文王国山梨」が誇る優れたコレクションと共に、縄文土器の宝庫である関東・甲信越地域から出土した土器の中でも傑出した名宝の数々が一堂に集まります。国宝や重要文化財をはじめとした選りすぐりの逸品を是非間近にご覧ください。

序幕 縄文アート～Jomon Art～

今から約60年前、当時の日本美術界を牽引していた岡本太郎氏が考古資料的価値を超えた日本独自の「美」を縄文土器に見出したように、今日のアートシーンにおいても、その荒々しくも洗練された縄文の造形からインスピレーションを受けている作家は少なくありません。ここでは、縄文文化をアートや音楽といった独自の切り口で発信しているNPO・JOMONISMにおいて世界中で活動している3DCGデザイナー・小林武人氏の作品を皮切りに、現代に通じる「縄文の美」を新たな視点から紹介します。

1部 突起～Projection～

土器をめぐる装飾の中でも、荒々しく緻密な突起がせり出す様は、まるで自然界の生命力そのもののような力強さに満ちています。炎や水煙といった脅威的な激しさすら彷彿とさせる突起の表現には、見るものを圧倒する縄文人の鋭い感性が表れています。

Pick up!

●国宝3点 / 重要文化財7点など

- ◆国宝 火焰型土器 笹山遺跡 十日町市博物館所蔵 (国宝3点)
- ◆重要文化財 水煙文土器 釈迦堂遺跡 釈迦堂遺跡博物館所蔵他 (重要文化財7点)



▲国宝 火焰型土器

2部 女神～Venus～

実在した人物の誇張表現なのか、あるいは想像の産物なのか、縄文時代にはすでに人智を超えた存在の表出を行っていたことが当時の資料からうかがえます。特に妊娠・出産をする女性の神秘性は、豊満な肉体に柔らかな表情を併せ持つ土偶の表現にも見出すことができます。

Pick up!

●重要文化財4点 / 国宝レプリカ2点 / 重要文化財レプリカ2点など

- ◆国宝 (レプリカ) 縄文のビーナス (土偶) 柵畑遺跡 茅野市尖石縄文考古館所蔵
- ◆重要文化財 土偶・耳飾 後谷遺跡 桶川市教育委員会蔵



▲縄文のヴィーナス

3部 生き物～Life～

現代人よりはるかに自然との距離が近かった縄文人は、しばしば彼らの祈念や精神を身近な動物の形に託して表しました。長寿や多産、豊穡といった、人間の一念ではどうにもならない切実さを、多様な生き物の姿に換えて表現することで昇華していたと考えられます。

Pick up!

●重要文化財3点 / 重要文化財レプリカ1点など

- ◆重要文化財 人体文様土器 鋳物師屋遺跡 南アルプス市教育委員会所蔵
- ◆重要文化財 深鉢形土器 酒呑場遺跡 山梨県立考古博物館所蔵



▶重要文化財 人体文様付有孔罌付土器

4部 巡る ～Spiral～

ゆるやかに描き出される渦巻き文様や環状に連なる文様の連続は、いずれも「永遠」や「循環」を感じさせます。有機的な曲線の流れはやがて波紋のような渦を生み、見る者がかつて縄文人が創出した深い精神世界の中へと引き込んでいきます。

Pick up!

●重要文化財2点など

- ◆重要文化財 深鉢形土器 殿林遺跡 山梨県立考古博物館所蔵
- ◆重要文化財 人体文装飾付土器 一の沢遺跡 山梨県立考古博物館所蔵

▶重要文化財
深鉢形土器



5部 前と後 ～Before,After～

縄文時代、山梨を含む中部高地において縄文文化が隆盛を誇るその前後には、どのような土器が作られていたのでしょうか。文化が成熟する以前、以降の造形を知ること、長い縄文時代の中で波及していった美意識の変遷を読み取ります。

Pick up!

- ◆トロフィー形土器 松原遺跡 長野県立歴史館所蔵
- ◆深鉢形土器 天神遺跡 山梨県立考古博物館所蔵

▶トロフィー形土器



第33回特別展 縄文の美—世界に誇る JOMON 芸術—

- 開催期間 平成27年10月6日(火)～11月23日(月・祝)
- 時間 9時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日、祝日の翌日(10月13日(火)・11月2日(月)・4日(水)は開館)
- 入館料 大学生・一般：600円(常設展とのセット料金あり)、団体(20名以上)480円
小・中・高校生・県内在住の65歳以上：無料(要証明書)

特別展関連イベント

- ◆縄文王国山梨シンポジウム「世界に誇る『縄文の美』を語る」
10月17日(土)13時30分～17時 岡島ローヤル会館(甲府市丸の内1-21-15)
- ◆縄文県談「世界に誇る JOMON 芸術を語る」
11月7日(土)13時30分～16時 甲府市中道交流センター(甲府市下曽根町1070-3) ※駐車は考古博Pへ
- ◆山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム「土器から読む縄文社会」
11月22日(日)13時～17時、11月23日(月・祝)9時～12時
恩賜林記念館(甲府市丸の内1-5-4舞鶴城公園内)
- ◆ものづくり教室～原始古代の技に学ぶ～(16歳以上対象)
10月17日(土)・31日(土) 縄文土器作り(両日参加できる方)
11月7日(土)・21日(土) 土偶作り(両日参加できる方)
- ◆ものづくり教室～チャレンジ博物館～(小中学生とその保護者：各回定員12名)
10月18日(日) 石製耳飾りづくりにチャレンジ
11月15日(日) 土偶づくりにチャレンジ
- ◆どき★土器カワイイさがしデッサンコンテスト 7月18日(土)～11月30日(月)
縄文時代の文様をじっくり観察してデッサンすることで、原始古代から現代に通じる自分だけの「カワイイ」をさがしてみよう!

夏休み スタンプラリーイベント



▲スタンプラリーブック

山梨県内の小中学生を対象に、県内の5つの文化施設をめぐるスタンプを集める『夏休みスタンプラリー・スタンプブック』が各学校を通じて配布されました。これに際して参加館である美術館・博物館・近代人物館・文学館・考古博物館では、来館してくれ子どもたちに向けてさまざまなイベントを開催しました。

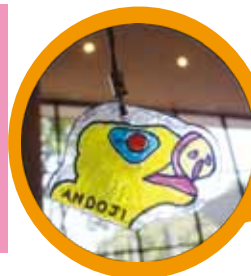
考古博物館では、勾玉作り、青銅鏡作り、火起こし体験、拓本しおり作り、ブラバンストラップ作りの5つの体験イベントのほか、「どき☆土器カワイさがい」というお絵がきワークショップを夏休み期間中に開催し、連日子どもたちで賑わいました。



▲拓本作り・墨をのせる作業



▲勾玉作りで一糸懸命石を削っています。



▲ブラバンストラップ作り

学芸員実習

考古博物館では毎年夏休みの期間中に学芸員実習生を受け入れています。今年も県内外の大学から3名の学生が参加し、約2週間の実習を行いました。当館ではちょうど夏休みにあたるということもあり、イベントの補助や来館者の対応といった対外的な活動にも積極的に参加してもらっています。また、企画展の展示案を練ったり、収蔵資料の整理を行ったりと、実践的な課題に取り組みながら学芸員の仕事が多岐にわたるものであることを学ぶ場としています。

▲甲府城の大きな瓦で拓本作り

▲子どもにも教えます

職場体験

今年度は8月末までに中学校8校、高校1校、合わせて27名の生徒が来館し、職場体験を行いました。職場体験では、館内での展示案内やイベントの手伝い、博物館についての学習のほか、県埋蔵文化財センターの協力の下、実際の発掘現場での作業や出土資料の整理作業など幅広く学びます。さまざまな体験を通して、文化財の保護についてはもちろん、仕事に対する姿勢を伝えることで、今後も子どもたちの視野を広げる手伝いをしていきたいと考えています。

▲展示の説明を受ける様子

▲1人で解説に挑戦！

第27回

風土記の丘こどもまつり

開催しました！

5月5日(火)・6日(水)の2日間、曾根丘陵公園では公園の指定管理者との共催で毎年恒例のこどもまつりを開催しました。今年は両日とも天候に恵まれ、2日間で延べ34,000人もの来園者があり、勾玉作り体験や狩猟体験、ウォークラリーといった各種アトラクションも例年以上の盛り上がりを見せました。



▲シカ肉の燻製



▲縄文土器ドラムバンド



▲完成した勾玉

アトラクション内容

- 史跡クイズウォークラリー
- 縄文風スナック「シカ肉燻製」試食
- 古代の食感「黒米ご飯」試食
- JOMON DOKI DRUM BAND「森の精霊」演奏会
- ホンモノの土器・石器にさわってみよう！
- 勾玉作り体験
- クラフトを作るう！
- 古代の火起こし体験
- 古代とあそぼう・狩猟体験



小中学生親子ものづくり教室
チャレンジ博物館

- ◆第1回『石製耳飾りづくりチャレンジ』(4/19)
石を削り、磨き上げて縄文時代の装身具である玦状耳飾りを作りました。完成後はひもを通して首飾りにしました。
- ◆第2回『古銭づくりチャレンジ』(5/17)
古銭の歴史を学びながら、実際に遺跡から出土した古銭を参考に自分だけの古銭を作りました。
- ◆第3回『弥生時代の矢じりづくりチャレンジ』
石を削り、磨いて磨製の矢じりを作ることを通して(6/14)磨製石器を作る技術を学習しました。
- ◆第4回『縄文土器づくりチャレンジ』
(7/19・26・8/9)
自分で土をこねるところから始めて、形を作り文様を付け、焼き上げるまでの工程を3日間かけて体験しました。
- ◆第5回『縄文時代のかざづくりチャレンジ』
身近な紙ハントを使い、縄文時代と同じ(8/23)網代編みの技法でペットボトル入れ作りに挑戦しました。



◀縄文土器
制作中



◀完成した
矢じり

大人のものづくり教室
原始古代の技に学ぶ



- ◆第1回『玦状耳飾りペンダント作り』(4/25)
縄文時代の装身具である玦状耳飾りをオリジナルのペンダントとして仕上げました。
- ◆第2回『古銭作り体験』(5/10・23)
実際に遺跡から出土した古銭を参考に、縁起の良い「枝銭」の形で古銭を作りました。
- ◆第3回『勾玉作り体験』(6/27)
再生琥珀を素材に、古墳時代の勾玉を再現しました。完成後はオリジナルペンダントにして持ち帰りました。
- ◆第4回『青銅器作り体験』(7/12・25)
「方格規矩鏡(TLV鏡)」と呼ばれる青銅鏡を磨き上げ、古の人々が目にしたであろう鏡の輝きを体験しました。
- ◆第5回『トンボ玉作り体験』(8/8・16)
古代からの技術を取り入れて美しいトンボ玉を作りました。



▲琥珀の勾玉



▲枝銭

春季企画展 甲斐のSAMURAI ゆかりの遺跡～城・館・屋敷・墓～

山梨では、中世から近世にかけての発掘調査が進み、武田氏系の城館跡や甲府城、城下町遺跡など、多くの成果が蓄積されてきました。

今回の企画展では武田氏関連の城や館ばかりでなく、在地豪族層などの屋敷、さらには墓にもスポットをあて、城・館・屋敷・墓という4つのテーマから甲斐で活躍した武士たちゆかりの遺跡を紹介しました。



▲網代(あじろ) 13世紀 山梨県指定文化財
大師東丹保遺跡出土 当館所蔵



▲縞銭(さしげに) 15世紀
小和田遺跡出土 北杜市教育委員会蔵

縞銭(さしげに)とは…
銭一貫文(銅貨千枚)を縞(銭の穴に
さし通してまとめるための細い縄)で
まとめたものです。

会期
平成27年4月25日(土)
▶6月14日(日)

夏季企画展 近代山梨の遺跡と遺物～養蚕・舟運・堤防・戦争～



▲くぼみをもつガラス製目薬瓶
鯉沢河岸跡出土 当館所蔵

考古学というと旧石器時代や縄文時代といった何千・何万年単位で遡る歴史を思い浮かべることが多いですが、今回の企画展ではより身近な歴史に焦点を当て、現代の私たちの暮らしに直接関わりながらも、普段は忘れてしまいがちな記憶に着目しました。

特に山梨の近代産業を支えた養蚕の歴史や、鉄道ができるまで流通の要であった富士川舟運の船着き場・鯉沢河岸跡、さらには70年前の甲府空襲による甚大な被害を物語る戦争の遺物など、県内の各地から出土した近代の遺物をひもとき、今日に至るまでの山梨の歩みを再認する場となりました。



▲(手前) 集束焼夷弾弾頭 塩部遺跡出土 当館所蔵
(奥) 焼夷弾 甲府城跡出土 当館所蔵



▲戦闘機「隼」胴体部品
南アルプス市教育委員会蔵

会期
平成27年7月18日(土)
▶8月30日(日)

考古博物館では、県内の史跡や文化財を訪れ、専門家の説明を聴きながら歴史路を巡る「史跡文化財セミナー」を行っています。8月までに2回開催し、来年の3月13日に今年度最後のセミナーを行う予定です。教科書には載っていないような身近な地域の歴史や遺跡に触れるチャンスですので、次回も是非ご参加下さい。

◆第64回『白山城周辺と武田の里を歩く』 5月17日(日)
甲斐武田氏の祖・武田信義の館跡など、武田氏ゆかりの遺跡が数多く残っている
韮崎市神山町の白山城周辺を歩きました。

◆第65回『富士講の参詣道を歩く』 8月2日(日)
富士山の信仰組織・富士講ゆかりの参詣道である「富士道者道(富士河口湖町の
足和田から大嵐地区へ抜けるコース)」を歩きました。

◆次回◆

第66回『谷村城下町を歩く』平成28年3月13日(日)

※開催日の一ヶ月前からホームページおよび電話にて参加の申し込みを受け付けます。



▲第64回韮崎市神山町
青空の下、気持ちよく
歩きました。

史跡文化財セミナー

今年度の考古学講座は「考古学が語る甲斐國の城」をメインテーマに、県内各地に点在している甲斐武田氏にゆかりのある遺跡や城跡について全4回の日程で開催しました。毎回会場を埋め尽くすほどたくさんの方に参加していただき、有意義な講演会となりました。

- 第1回 平成27年 6月 6日(土)
『武田烽火台群～獅子吼城と戦国通信網～』北杜市教育委員会 村松佳幸氏
- 第2回 平成27年 7月 4日(土)
『谷戸城跡～甲斐源氏武田氏の祖、逸見氏の居城～』北杜市教育委員会 渡邊泰彦氏
- 第3回 平成27年 7月18日(土)
『岩殿城跡～武田の支城・郡内の軍事拠点～』大月市教育委員会 稲垣自由氏
- 第4回 平成27年 8月15日(土)
『要害城跡と熊城跡～武田氏館の詰城～』甲府市教育委員会 信藤祐仁氏



▲第1回考古学講座

考古学講座

- ★4月26日(日) 甲冑を着て戦国武将に変身!
子どもたちが戦国時代の甲冑のレプリカを着て武将に変身しました。
- ★5月24日(日) 甲府城の瓦で拓本しおりをつくろう!
甲府城から出土した本物の瓦で拓本をとり、オリジナルのしおりを作成しました。
- ★6月14日(日) 考古博物館ギャラリートーク
春の企画展「甲斐のSAMURAI ゆかりの遺跡～城・館・屋敷・墓～」と常設展を学芸員の解説を聴きながら回りました。
- ★7月19日(日) 絵本よみきかせ「どき☆土器カワイイのさがしかた」
お絵かきワークショップ「どき☆土器カワイイさがし」に関連して、面白くて絵柄のきれいな絵本を読みながら土器のアートな見方を学びました。
- ★7月26日(日) 戦争体験おはなし会・昭和の紙芝居をよもう!
今から70年前、日本がまだ戦争していた頃の小学生が何を思い、どんな生活をしていたか体験談を語っていただきました。また、戦後間もない頃の貴重な紙芝居の読みきかせも同時に行いました。
- ★8月23日(日) 竪穴住居でおはなし会&おえかき
古代の人たちが住んでいた竪穴住居の中で絵本を読みながら、縄文時代の人々の暮らしに思いをはせてみました。



▲火縄銃を構える少年武将



▲おはなし会の様子

考古博物館イベント

第13回

わたしたちの研究室



考古博物館では山梨県内の小中学生の皆さんを対象に、歴史・考古学分野に関する研究成果を募集しています。

これは身近な郷土の歴史を学び、その研究成果を表彰・発表する機会を設けることで、児童・生徒の考古学への興味関心を深めるきっかけを作ると共に、自ら調べ、考え、まとめる力をつけることで「調べ学習」から一歩進んだ主体的な研究活動につなげる機会を提供することを目的としています。

今年で第13回目を迎える本研究室では、実際に現地へ赴き自分の足で調査・考察する過程を重視しています。本やインターネットから間接的に得た情報だけでなく、是非本物に出会い、触れた実体験を通して自由な発想で研究してほしいと思います。

部門：(1) 個人研究部門 小学校の部および中学校の部

児童・生徒がそれぞれ自由なテーマまたは教育課程において統一したテーマで取り組んだ個人またはグループの作品等

※数名のグループの作品等は個人研究部門とします。この場合「総合的な学習の時間」等において取り組んだ2~3人の作品等を含みます。

(2) 団体研究部門

学級・学年・学校(部活動等を含む)で取り組んだ作品等、または統一したテーマのもとで取り組んだ児童・生徒の個人の作品等を取りまとめたもの、もしくはその指導過程をまとめたもの

※部活動等、校内における団体等の作品等を含みます。また、学校単位等で取り組み、団体研究部門に応募した個人の作品等については、同時に個人部門にもエントリーすることができます。

募集期間：平成27年9月1日(火)~12月6日(日)

表彰：最優秀賞(山梨県教育委員会教育委員長賞)1点、優秀賞(山梨県教育委員会教育長賞)2点

努力賞(山梨県考古学協会会長賞)若干、奨励賞(山梨県立考古博物館館長賞)若干

表彰式：平成28年2月7日(日) 考古博物館エントランスホール(受賞者は表彰式後、作品等の発表をしていただきます。)

展示期間：平成28年2月9日(火)~3月6日(日) 考古博物館特別展示室

○作品等は展示会終了後に返却しますので、3月8日(火)以降に引き取りに来館してください。その際に参加賞などを併せてお渡します。

○各部門の最優秀賞・優秀賞に選定された作品等は、以降1年間、当館の事業等で紹介いたしますので、引き続きお預かりします。

その他：①「応募申込書」(様式1)、「展示用説明書」(様式2)は、当館ホームページからダウンロードできます。

②昨年度の様子は当館ホームページにて公開しています。

③学校から応募されたものはすべて学校を通してご連絡します。ただし、報道機関等から対応を求められた場合もしくは当館からの簡単な事務連絡等は、直招連絡することがあります。

考古博物館・風土記の丘研修センター利用のご案内

山梨県立考古博物館 TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

開館時間 午前9時から午後5時まで
ただし、入館は午後4時30分まで

休館日 毎週月曜日(祝祭日・振替休日を除く)
祝日の翌日(日曜日・祝日を除く)
特別展の準備・撤去作業のため9月28日(月)~10月5日(月)、11月24日(火)~11月30日(月)は臨時休館いたします。

観覧料 個人210円、団体(20名以上)170円
(常設展)

※次の場合観覧料が免除になります

- ・65才以上の方(ただし、特別展は県外の方を除く)
- ・障害者手帳をお持ちの方・付き添いの方(1名まで)
- ・小・中・高校生
- ・県民の日(11月20日)

県内の学校(団体)の利用について

- ・教育課程(小・中学校、高等学校、特別支援学校)で入館される場合は事前に見学の申し込みをお願いします。
- ・見学時間を充分にとり、ゆっくりと見学できるようにしてください。
- ・できるだけ下見をし、担当と打ち合わせをしてください。

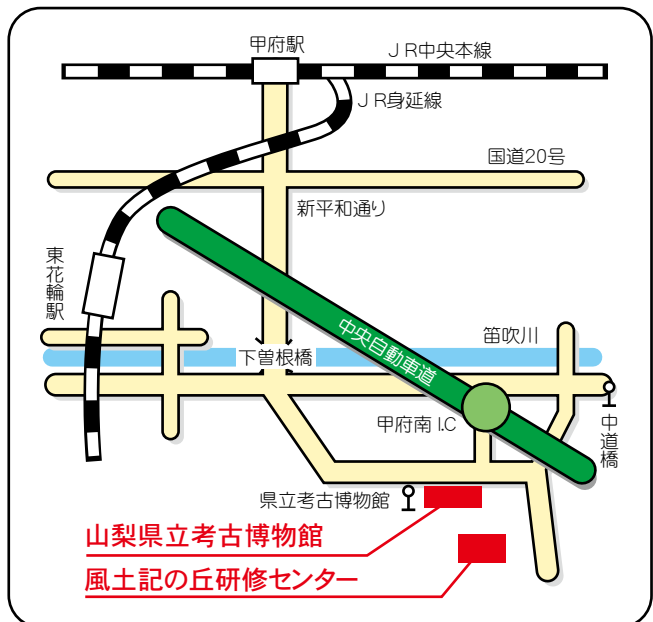
学校見学の申し込みと問い合わせ先
055-266-5286 風土記の丘研修センター

交通

- (1) 路線バスの利用
・甲府駅より豊富行(中道橋経由) - 「県立考古博物館」下車
- (2) 自家用車の利用
中央自動車道甲府南インターチェンジ前

風土記の丘研修センター TEL 055-266-5286 FAX 055-266-5287

休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)、祝日の翌日
12月29日から1月4日



厳しい猛暑を乗り越え、爽り豊かな秋の訪れと共に、平成27年度上半期の活動をお知らせする考古博物館だより80号をお届けします。今年もいよいよ特別展が始まり、時を超えた縄文の名品の数々が当館に集います。貴重な作品との出会いを通して、この秋、心の栄養を蓄えましょう。下半期も引き続き多くのイベントをご用意しておりますので、是非ご家族皆さんで来館下さい。(安)

発行日 平成27年8月28日
発行 山梨県立考古博物館
住所 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
電話 055-266-3881(代)
印刷 株式会社 峽南堂印刷所